

緑区徳重学区 災害時避難行動マップ

この避難行動マップは、大規模な地震や園水害が発生した場合を想定し、徳重学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したもので、避難行動マップをもとに、「いざ」という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

役に立つ場所

- 地域防災協力事業所**
災害時に地域に対して支援協力をしてくれる事業所です。
トヨタレンタリース愛知
キヤウッドヨシタ東海株式会社徳重店
ビルスウォーグ徳重ガーデンズ
- 公衆電話**
NTTが設置する公衆電話は、災害時には優先的につながり、状況に応じて無料になります。
- その他**
 - コンビニ、スーパーなどの商業施設
営業している物資の調達が可能
公衆電話が設置されている店舗あり
病院、診療所など

凡　例

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 指定緊急避難所(一時避難場所)
- 地域防災協力事業所
- 地下式給水栓設置場所
- WC 仮設トイレ設置場所
- 公衆電話
- AED AED設置場所

【各自治会（自主防災会）の一時集合場所】

災害発生直後は行政機関が十分に機能しないため、地域の皆さんによる安否確認、初期消火、救助活動が、被害の拡大を防ぐ大きな力となります。まず、自分の身、そして家族の安全を確認後、一時集合場所に集合して自主防災活動に参加しましょう。避難が必要な場合には、広い道路など安全な経路で指定避難所に向かいましょう。

番号	自治会名	一時集合場所	番号	自治会名	一時集合場所
①	徳重一・二丁目	通曲公園	⑤	鶴が沢一丁目	梨の木公園
②	徳重三・四丁目	通曲公園	⑥	鶴が沢二・三丁目	鶴が沢東公園
③	徳重五丁目	通曲南公園	⑦	元徳重	徳重神池公園
④	横吹	徳重公園	⑧	第一徳重住宅	さくら歯科駐車場
			⑨	黒沢台住宅	黒沢台公園

指定避難所

火災や家屋の倒壊、家具の転倒などにより、自宅に住むことが出来なくなった方が、一定期間、避難生活を送るためのところです。

- 徳重小学校 (TEL877-3885)
- 徳重コミュニティセンター (TEL878-0006)
- 扇台中学校 (TEL876-6201)
- 徳重地区会館 (TEL878-2055)

【注意】 指定避難所の収容人数には限りがあります。避難所での生活は環境の変化から体調を崩す方が多いため、自宅で避難生活を送るよう、家具の固定と、7日分の薬箱を用意ましょう。

指定緊急避難場所

・洪水・内水氾濫、土砂災害、大規模な火事などの、目前に迫った危険から命を守るために場所です。

災害種別	指定緊急避難場所	災害種別	指定緊急避難場所
洪水 内水氾濫	徳重小学校	土砂災害	扇台中学校
地盤の隆起	徳重コミュニティセンター	大規模な火事	徳重地区会館
落葉	みどりが丘公園	屋外	通曲公園
	梨の木公園	グラウンド	カネスエ徳重店

気を付けて！(地震編)

- 空き家**
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。
- 古(い)い(古)い)ブロック塀**
大きな地震では倒壊する危険があるためすぐ離れる。近づかない。
- 狭い道**
近くの家が倒壊した時、道がふさがれてなくなる可能性がある。
- 電線**
切れた電線は停電でも感電の危険がある。近づかない。
- 瓦屋根**
大きな地震の際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。

この地図は、名古屋市の承認を得て、名古屋市計画基本法(平成27-25年度)を使用して作成したもので、承認番号 半成21第64号 JIS Z 8210
広域緊急避難所(避難所建物)・洪水・内水氾濫・土石流・崖崩れ・地滑り・大規模な火事・指定緊急避難所・指定避難所の指定について(テクニカルガイド)、名古屋市クリエイティブコモンズライセンス 表示4.0 国際

緑区

世帯：3,436 世帯
面積：1,975 km²

徳重学区

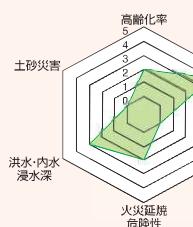
人口：8,859 人
(令和2年12月1日現在推計人口より)

徳重学区では、南海トラフ巨大地震（あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震の場合）が発生した場合、学区のほとんどどの地域で震度6弱、一部の地域では震度6強が想定されております。まずは、自分や家族の身を守るために、日頃から家具の転倒防止などの家庭の地震対策に努めましょう。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。

当学区には一戸建ての住宅が密集している地域があり、一度火災が発生すると広い範囲に燃え広がる可能性が高くなっています。日頃から火災を起さないための対策をするとともに、大規模な火災の発生時に避難できる広域避難場所を確認しておきましょう。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	16.7%	2
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	100～500 棟未満	2
洪水・内水浸水深	1.0m～2.0m未満	3
土砂災害警戒区域なし		0



お住いの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック等など）及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防火カルテ」をご活用ください。
名古屋市 地区防火カルテ 検索

火災から命を守るために「今」できること

● 住宅用火災警報器を設置する。

寝室、寝室がある階の階段、台所に設置が必要です。

火災を早く発見し、火災を未然に防ぐだけでなく、隣近所への燃え移りを防ぐこともできます。また、設置後も定期的に、動作確認をしましょう。



● 住宅用消火器等を設置する。

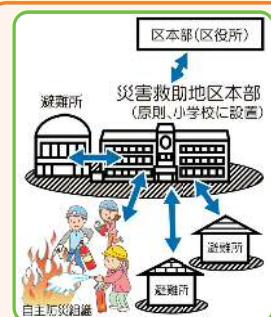
小型で軽く、取り扱いが簡単な住宅用の消火器や、片手で素早く使えるスプレー式で、天ぷら油などの火災に威力を発揮するエアゾール式簡易消火具を備えておくといざという時に役立ちます。



● 感震ブレーカーを設置する。

地震の揺れを感じると、自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。

不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するために有効です。



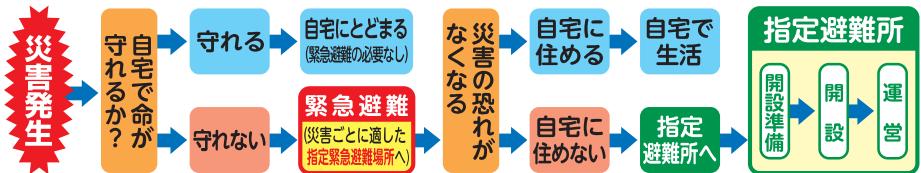
一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

◆ まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心活動します。（安否確認、声かけなど）

◆ 災害の恐がなくなった後も、避難生活は続きます。自宅（在宅避難）が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。

◆ 「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部（区役所）に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

基本的な避難行動



- ・避難先は固定されておらず、どこへでも避難可能です。（普段から避難先や危険個所を確認しておきましょう。）
- ・地域で避難方法や安否確認など、ルールを決めている場合は留意しましょう。
- ・在宅避難の方も、指定避難所で避難者登録することで、食料などの支援が受けられます。

在宅避難のスメ

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける“在宅避難”を考えましょう。その際は、下記のことを心掛けましょう。



避難先へ安全に避難するための5つのポイント

- ①ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る!
- ②「一緒に逃げよう」近所への声かけ!
- ③高齢者や障害者などの避難誘導を!
- ④原則徒歩で!
(渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない)
- ⑤木造住宅密集地、がけ地や川の近くは避けて!

徳重学区の皆さんへお知らせ

- ◆ 7月に避難所開設訓練、10月に自主防災訓練を行い、発災時のマネジメントを身につけています。
- ◆ 6月と12月の町美運動、通曲公園の落ち葉拾いを通じて住民間の共同体づくりを図っています。
- ◆ 年5回の防犯・防火パトロールにより、緊張感を保つようにしています。
- ◆ 発災時の安否確認を素早く行うため、安否確認札（無事ですカード）を活用しましょう。

